

株式会社タムロン

2020年12月期 第2四半期決算説明会

日時：2020年8月4日（火）17:00～18:00

【主な質問と回答】

Q1. 写真関連の自社ブランド新商品である A071 はレビューなどを見ると高評価であり、得意の高倍率の強みを活かした商品だと思うが、この商品があっても下期の写真関連事業は減収になってしまうのか？

A1. A071 は当社が世界初の高倍率ズームレンズとして発売して世界的な大ヒットとなったモデルと同じ焦点距離の 28-200mmの高倍率ズームであり、発売してから好評をいただいております。BO も若干あるが、それよりも市場環境がまだ本格回復していない影響の方が大きい。中国は回復しつつあるが、米州、欧州などは市場がまだ回復していない。また、カメラが売れていかないと交換レンズも伸びていかない面もある。そのような状況を踏まえた計画である。

Q2. 特機関連の監視/FAは、期初計画では下期は中国向けが伸びていくという話であったが、この件についての状況を教えてほしい？

A2. 監視カメラのマーケットは中国の市場が大きく、中国の監視カメラメーカーも多い。中国国内で多くの監視カメラを採用するプロジェクトがあり、我々はそれに参画して進めている。コロナの影響で、中国国内でロックダウンがあり、監視カメラメーカーの開発が滞り、遅れが出ていることと、政府からのプロジェクトに対する支援が行き届いておらず、各プロジェクトが滞っているということもある。時期はずれ込むことになるが、売上は拡大できるものと考えている。

Q3. 監視/FAでの中国市場での売上増はどの程度計画しているのか？

A3. 上期は前期比約 40%減であったが、下期では前期比倍増を見込んでおり、通期では前期比で約 1.5 倍増を見込んでいる。

Q4. 特機関連の下期は増収だが減益の計画となっている。価格競争、先行技術開発及び投資などの影響とのことだが、もう少し詳細を伺いたい。

A4. 価格競争という点では、中国のカメラメーカー向けでの中国の競合メーカーとの価格競争がある。先行技術開発という点では、カメラモジュールの先行技術開発

で投資が増えている点である。

Q5. 業績が厳しいながら中間配当を据え置いている。期末配当についての考え方は？

A5. 安定配当と配当性向 35%程度という方針は変更していないが、本日発表したように、市場環境が非常に不透明な環境であるため、期末の配当については引き続き未定としている。

Q6. 来年のデジタルカメラ市場をどう考えているか？

A6. 上期はコロナの影響が非常に大きく約 40%減だったが、下期に関しては希望的観測ではあるがコロナの影響が少しずつ解消していくものとみている。来年に関しても、市場の縮小幅は小幅になるだろうと考えている。

<ご留意事項>

本資料は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しており、説明会でお話したことをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。